

第3回 ワークライフバランス/男女共同参画推進 研修会

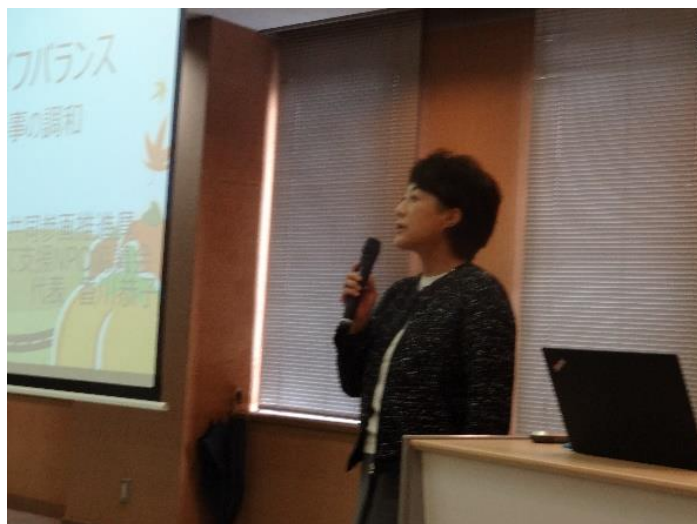
平成 29(2017)年 10月3日

各自のライフステージで考えるワーク・ライフ・バランス (WLB)

講師：香川恭子氏（ひろしま子育て支援 NPO 協議会代表）

ひろしま子育て支援 NPO 協議会代表の香川恭子氏を迎えて、10月3日（火）に本学大学会館 ICT 教室において、ワークライフバランス（WLB）研修会を開催しました。香川先生は、子育てや介護などご自身の体験から、**働きたいと思っている人が働き続けることのできる社会の実現**を願い、活動されてきた方で、これまでの経験を通してWLBの意義について講演してくださいました。香川先生の活動の根底には、子育てに係わる次の世代の若い女性達に「**自分と同じ苦勞をさせない**」という思いがあり、行政に働きかけて、ファミリーサポートセンターの設置や病児保育のサポート制度の導入に尽力されてきました。香川先生のような先人の方々の思いや活動の積み重ねがあり、様々な支援制度の導入や環境の改善、さらに法制度の改正につながり、ライフイベント時でも働き続けることのできる社会環境が整備されてきたのだと改めて実感しました。しかし、官民挙げた取組みにも拘らず、**日本のジェンダーギャップ指数（2017年版）は昨年度からさらに順位を落とし、144ヶ国中114位**です。114位である背景として、日本はどのような課題を抱えているのでしょうか。大学は次世代を担う人たちの学びの場であることから、率先したWLB や男女共同参画の環境整備が求められる場所ですが、数値目標として女性教職員の割合を掲げていても、何をどのようにすれば到達できるのか、具体的な対策については答えが見いだせない状況にあるように思います。香川先生のご講演から、WLB の是正や男女共同参画の推進を図るには、その根底にある問題の本質を探ることが大切であり、私達一人一人の意識改革なくしてはなし得ないと感じました。

スウェーデンはジェンダーギャップが少ない最も男女共同参画が進んだ国の一つですが、「実は、**日本の中に、スウェーデンを上回る女性就業率の県があります**。その県はどこでしょうか？」という 香川先生からの質問に、「そんな県が日本にあるの？」と驚いた参加者は多かったと思います。その県は多世代が同居している家族の割合が最も多い**福井県**だそうです。このデータは、**日本には子育てや介護などにより働き続けることを断念している女性が多く、潜在的な女性労働者が多数いる**ことを示しています。



子育てや介護、労働者自身が病者や高齢者の人達は時間的制約があり、フルタイムで働くことが求められると働きたくても働き続けることは困難です。これまでの日本社会はこれらの多くの人達が働くことを断念せざるを得ない状況にありました。ところが、これからの日本社会は少子高齢化に伴い急速に労働人口が減少し、労働力不足となることが予測されています。その労働力を補うために、企業がWLBに取り組み始めたのが日本の実情のようです。しかし、欧米では女性の社会進出を人権問題として捉えています。WLBは労働力確保ではなく、**その人がその人らしく生きるために制限のない選択を自由に行えるという人権問題**として考えられています。日本のジェンダーギャップ指数に係わる問題は、WLBの根底に流れるこの意識の違いに起因しているのかもしれません。

WLBが必要であると理解するけれども、WLBを図っていたら職場が立ちいかないという声も多く聞かれますが、果たして本当にそうでしょうか？「WLBは一人でできるものではなく、周囲とトータル的にマネジメントされることで図られるものです。**ワークシェアやチーム制により、WLBを図りやすい職場環境にしていく努力と理解が大切**です。」と、香川先生がメッセージを述べられました。**時間的制約のある労働者となることは、だれにでもあり得ること**です。

ライフステージでWLBのあり方が変わることを理解することも大切であるとのことでした。例えば、仕事を通して成長する時期は $W > L$ 、子育て等の家庭や家族を重視する時期は $W < L$ 、仕事上での責任が大きくなる時期は $W > L$ 。また、目先の単なる時間や労力の配分だけでなく、長期的な視点で人生のスケジュールを考えて自己研鑽を積むことや、各種支援制度を活用することなども、WLBの工夫として提案されました。家庭内においては、家事や育児、介護のシェアについてパートナーとしっかり話し合い、子どももチームワークの一員として役割を分担することも必要とのことでした。

働きたい人が働き続けることができる社会の実現は、働き続ける人の経済的な安定を意味します。女性や時間的制約のある人が働ける環境整備は経済的に安定となる上でも必要であり、WLBの重要性が考えられるようになりました。

女子学生を中心に教職員あわせて54名の参加がありました。香川先生のお話は、女子学生にとっては人生の先輩からの心強いアドバイスになったと思います。男子学生にとっては、家事や育児、介護の負担をパートナーとしっかり話し合い、シェアし、お互いの生き方を尊重し協力し合う大切さについて学ぶ機会になったと思います。この度の講演会を通して、日本の社会にはWLBの問題において進化すべき余地が多分に残されていると感じました。

最後に、参加した学生が自由記述欄にたくさんの感想を記載してくれましたので、学生から寄せられた感想の一部を紹介します。



- ワークライフバランスについて考えたことがなかったので、勉強できてとてもよかったです。
- 将来どのように生活するのかを考えたことがなかったので、今回このような講義を聴くことで少し考えることができてよかったです。
- 就職・結婚のことを今まで考えたことがなかったのでいい機会になりました。
- 今の安倍首相の政策がもっと地方の人たちに対して明確に今日の研修会みたいにニュースなどで報道してくれれば一人ひとりの意識が高まり協力的な国になり政治が円滑に進むのではないかと思った。とてもいい話だった。
- 子育てにおいて準備しておかなければならないことが分かってよかったです。
- 今の時代の子育ては、仕事とも両立していかないといけない人が多いと思うので、2人で助け合っていくことが大切だと思います。仕事ができる人が減ってきているので今後の日本はとても不安だと思います。
- 女性にとって子育て妊娠のタイミングは仕事の面を含めて考えると難しい問題だと思いました。
- WLBがどのようなものかと思っていたけれど話を聞いてみると現在の男女の間で起こる問題や企業での過労などの面をよりよくしようとする活動だということが分かった。このWLBは日本ではまだまだ広まっていないような感じがしました。世界では日本より残業が少ないところはたくさんあるのでそういう面でも企業側がどうにかしてくれたら、この先就職するときにしやすいなと思った。
- 自分が将来働くようになったり、家庭を持つようになったりしたとき、どういう風に仕事と家庭を両立するのがいいかを考えるいい機会になりました。こそだては、母親だけでなく父親も協力することで負担が減ることが分かりました。
- 就職を考える際に、このワークライフバランスがきちんと整った会社を選びたいと思いました。
- やっぱり子育てするのは大変なので、しっかりサポートをすることが大切だと分かりました。自分の年齢や親の年齢子どもの年齢など先を見越して考えていくことが大切だと思いました。



ワークライフ支援セミナー

2017年
10月3日
(火曜日)

福山大学 大学会館 ICT教室CLAFT

16:30~17:45

各自のライフステージで考える ワーク・ライフ・バランス (WLB)

今や、WLBなど必要ないと言う人は、ほとんどいない。が、そうは言ってもWLBなど図っていたら職場が立ち行かない、という声も多く聞かれる。果たして本当にそうなのか？

国では働き方改革として長時間労働の是正をかけた、そのことによりWLBが改善されるとし、改善するための課題解決に取り組むとしている。

今回は、自分自身のWLBを図るためにはどうすればよいか、個人でできる身近な取り組みを各自のライフステージで考えるとともに、職場の取り組みや国の制度などを知り、取り組みを進めるヒントとしていただきたい。

<講師> 香川恭子 先生

広島市公立中学校教諭、YMCA健康福祉専門学校非常勤講師を経て、NPO法人男女共同参画社会をめざす女性教育を考える会広島を立ち上げ、指定管理で広島市女性教育センター、広島市男女共同参画推進センターを2015年まで運営。若者の就労に関する意識調査や育休復帰に関する経営者や育休経験者へのインタビューをまとめ、事例紹介などを行う。現在は、ひろしまNPOセンター子育て支援事業マネージャー、ひろしま子育て支援NPO協議会代表として活動し、広島県子育て支援員研修事業に従事、子育てオープンスペース「つばさ」を運営、2016年からは新規事業として産後サポートを幟町で実施。その他「防災・被災者支援地域女性ネットワーク」で、男女共同参画の視点で防災や災害時の支援に取り組んでいる。

問い合わせ先：ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）
worklife@fuhc.fukuyama-u.ac.jp